

No.141

2003
3.31

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内

岐阜県博物館協会

TEL 0575-28-3111

振替名古屋637909

長い伝統をもつ資料館

高山市郷土館の意義 館長 田中 彰



高山には大きい博物館がありますが、歴史的建物を活用した、小さなハウスミュージアムも多くあります。この特徴は、館が衰退した時、違う用途に再活用できるところにあると思います。高山市では国、県、市指

定文化財建物を多く所管していますが、各施設内に、特長を持たせた分野を設けて、拠点として、また史料展示を行なって、高山の独自性を出そうとしています。

さて、城下町高山の町並み保存、町づくりに密着した博物館を目指そうとしている高山の一例を紹介してみましよう。

城下町高山は、400年の歴史を持ちます。金森氏によって、ち密な都市計画の構想をもって、経済と領国体制の一大拠点として築き上げられたものです。その後、元禄5年からは幕府直轄地になり、武士団は上ノ山(山形県)へ移転して武家屋敷はなくなりましたが、商人はそのまま高山に居住して商人文化を育み、商人町は国選定伝建地区になって高山を訪れる人たちに異次元体験を与えています。

町人の商家は上質の建築として洗練され続け、途中、節約令で取り締まりをうけたこともあるほどです。また、美術工芸の頂点ともいえる高山祭り屋台を商人たちが完成させました。さらに、文化・教育面では、歴代代官・郡代、同行してきた元締め、手付けなどの役人とともに有力町人らが文芸、学問を目指しました。田中大秀、赤田臥牛、二木長嘯ら有数の町人学者を輩出しています。

こういった背景をもとに、高山の歴史文化は温存されてきて、今もその格調ある町人文化は継承されています。この高山を理解し、楽しんでもらおうとしているのが、歴史民俗資料館高山市郷土館の役割であると思います。

今までに、数多くの歴史資料が当館に有識者から寄付されてきました。県指定文化財の荏野文庫も流出を懸念した有識者が買い戻して郷土館に納まったもので、その他にも町家の土蔵が整理される時一括寄付されたもの、文化財公有基金で買い戻したものなど、深い人的結縁で保管することになったものが多いわけですね。土蔵内一括寄贈史料は、江戸期土蔵内の史料であり、重要史料が新発見されたこともあります。

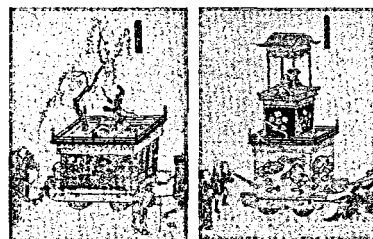
そんな、こんなで、郷土館は金森時代史料から町人文化史料、膨大な寄付、寄贈史料に囲まれています。特別展を開催するときには、題材には事欠かず、借用にあちこち回らなくても収蔵品だけで構想ができるのです。

しかし、史料が多いだけに、受け入れ態勢は大変で、史料の目録作り、荷札付けには伝統的なノウハウがあります。史料番号が確定しているため、その後の活用は勝手がよく、このごろではデジタル化して将来の閲覧、公開活用に向けて地道にすすめています。

地域密着型の博物館とよくいいますが、50年以上民間有識者に資料提供してもらい、今も様々なかたがたから寄贈支援賜っている郷土館は、まさに地元密着ではありませんか。そうそう、郷土館の敷地、土蔵も寄付された物件でした。

土蔵は火災に強く、空調費用が不要で、まさに地球環境に負荷をかけない良い施設だと考えます。永久に保存しなければならない史料を、やさしく包み込む土蔵は高山らしいところがありましよう。

地域密着型博物館の一例として、参考にありませんか。



第50回全国博物館大会報告

「21世紀に対応する博物館の設置・運営の基準と評価はいかにあるべきか」

日 時：平成14年11月13日(水)～15日(金)

会 場：宮崎市 宮崎観光ホテル

参加者：283名 (岐阜県2名)

本年度の全国博物館大会は、第50回の記念すべき大会として、古代歴史ロマンと神話が伝えられる「日向の国」宮崎県宮崎市で11月13日から3日間にわたり開催されました。

13日は、aコース～dコースの4コースに別れ、宮崎市内の宮崎県総合博物館、宮崎県立美術館、宮崎科学技術館、大淀川学習館、みやざき歴史文化館、宮崎市フェニックス自然動物園、西都原古墳群、西都原資料館、西都原古代生活体験館等の見学会が催されました。

14日午前中に、開会式と表彰式等が行われ、開会式の挨拶で、(財)日本博物館協会中川志郎会長は、「21世紀に対応する博物館の設置・運営の基準と評価はいかにあるべきか」と題して、経済社会の世界の格付けにおいて、構造改革が進められており、各種の制度や・・・公立・私立を問わず博物館も例外ではないことを示唆されました。

ご祝辞では、遠山篤子文部科学大臣より(代読)、「我が国から21世紀において、活力ある国家として発展し、子供達が夢と希望を持つことができ、明るい未来を切り開くためにも、歴史・芸術・自然科学等の幅広い分野にわたって、人類の遺跡資産を集中し国民に分かり易く公開する。また、社会の楽しみに寄与するという博物館の役割はますます重要になってきております。特に本年4月から、完全学校五日制が実施され、地域ぐるみで子供を育てて行く、環境の整備がこれまで以上に求められ、豊富な学習資源とそれらについての専門家を要する博物館には大きな期待が寄せられており、我が国としては、博物館と学校などの関係機関、関係団体との連携を図るため事業の実施や博物館運営の評価のあり方に関する調査研究などを通して、博物館機能を充実するための推進に努めているところであり、本日お集まりの皆様におかれましても、博物館に期待されている役割について、十分ご認識の上、活動の活性化にご協力賜りたい」との話がありました。

続いて、宮崎県知事、宮崎市長からの祝辞がありました。

また、永年勤続者39名と寄付者7名の表彰が行われ、棚橋賞では2名の方が受賞されました。全体会議では、議長団選出の報告があり、行政報告では、文部科学省生涯学習生活局社会教育課社会教育活動推進企画課体験学習活動推進室から、資料をもとに博物館の現状説明があり、「博物館の専門職員が、直接的にあるいは、間接的にも何らかの不法売買を支援することは、明らかに非倫理的である」と、強調されていました。

14日の午後からは、①全国博物館会議、②記念講演、③基調講演が行われました。

①全国博物館会議では、平成14年度予算、事業について提案があり、了承されました。

②記念講演は、「新構想博物館の設立を目指して—九州国立博物館(仮称)—」と題して、三輪嘉六(九州国立博物館設立準備室長)氏による講演があり、(仮称)九州国立博物館建設工事計画について、途中報告と「外壁の殆どをガラスで構築する」という斬新な構想が述べられました。

③基調講演は、「21世紀に対応する博物館はいかにあるべきか」と題して、嶋崎丞(石川県立美術館長)氏による講演がありました。

15日の午前中に、④シンポジウム、午後は⑤パネルディスカッションが開催されました。

④シンポジウムでは、「今後の博物館設置・運営基準と評価の在り方に関する」と題して、国立科学博物館、東京都江戸東京博物館、大阪市立自然史博物館、佐野美術館、石川県立美術館、各館長により「博物館の運営の活性化・効率化など博物館の望ましい姿」について参加者も含め、意見交換がされました。

⑤パネルディスカッションでは、東京国立博物館、笠掛野岩宿文化資料館、椎葉民族芸能博物館、江ノ島水族館の事例をもとに、意見交換が行われました。

(光記念館 高野博司)

第54回岐阜県博物館協会会員研修会報告

期 日：平成14年11月7日(木)
場 所：岐阜県博物館研修室
講 師：大塚清史氏/日比野利弘氏
参加者：22名

岐阜県博物館において会員研修会が以下の内容で開催されました。

- 研修1 「岐阜市歴史博物館のボランティア活動について」
講師：岐阜市歴史博物館主任 大塚清史氏
- 研修2 「岐阜県博物館の学校連携事業について」
講師：岐阜県博物館教育普及担当 チーフ兼課長補佐 日比野利弘氏
- 研修3 岐阜県博物館の展示見学
・岐阜県博物館秋季特別展 「中山道 街道400年」
・岐阜県図書館収集資料展示 「古地図にみる中山道」



研修1では、大塚氏より、「岐阜市歴史博物館のボランティア活動について」の話をお聞きました。話の内容は4つの柱からなっていました。①ボランティア活動導入の目的と経緯、②募集から活動までの実務状況、③フィードバックの方法、④成果と課題でした。特に印象に残ったことは、来館者のニーズとボランティアの意欲との調整の仕方です。ボランティア活動をしている人自身が有意義に感じるためのフィードバックの方法等、数多くのことを学ばせていただきました。

研修2では日比野氏が「岐阜県博物館の学校連携事業について」話をされました。特に学校のニーズに合わせて活動内容を工夫し、博物館利用説明会、事前打ち合わせ、出前授業といった内容が、とても参考になりました。

その後、交流会をもち、ボランティア活や学校との連携という話題で、他館との情報交換をしました。最後に、研修3として、岐阜県博物館の展示を見学し閉会しました。

第95回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：「斎宮と伊勢物語」
日 時：平成15年2月16日(日)
会 場：岐阜県博物館ハイビジョンホール
講 師：斎宮歴史博物館主査兼学芸員 榎村寛之氏
参加者：80名



当会第95回公開講座は、岐阜県博物館で行われていた日本まんなか共和国博物館交流事業特別企画展「よみがえる幻の宮～斎宮歴史博物館所蔵品紹介展～」と関連して開催されました。

講師の榎村氏は、まず斎王とは、斎宮とはといった演題のベースになる内容をわかりやすく、丁寧に話をされました。「660年にわたって、60人以上の斎王が存在した」といったような驚かされる事柄もありました。

次には、斎宮と伊勢物語とのかかわりについて実際に原文を紹介しながら具体的に解説していただきました。とても熱のこもった魅力的なお話で、聞いているうちにいつしかその時代へタイムスリップしているような気持ちになりました。

そして、伊勢物語の信憑性について「狩り使」や「在原業平の位」などをキーワードにして、他の文献からいろいろと考察され、仮説をたてて検証していかれたその過程をわかりやすく説明されました。

歴史的な事柄の深みや重みに触れることができた有意義な時間でした。

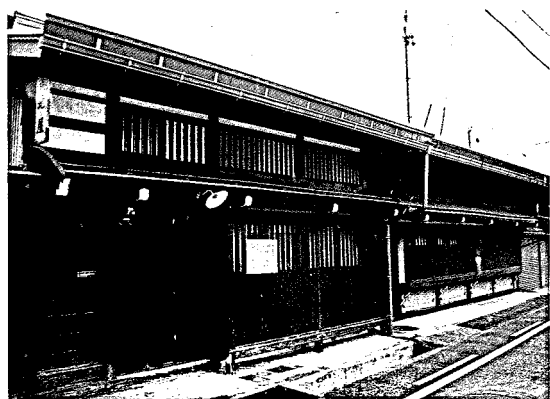
講演後、開催中の「よみがえる幻の宮～斎宮歴史博物館所蔵品紹介展～」を見学し、多くの方が、榎村氏の貴重な講演を思い起こしながら資料をじっくりと味わって見る事ができたようです。

(機関紙委員 岐阜県博物館 井上好章)

宮地家住宅

〒506-0851 高山市大新町2丁目44番地
TEL 0577-32-8208

高山市指定有形文化財の町家である宮地家住宅は、高山市が土地・建物を購入し約2カ年の整備工事を経て、平成14年10月1日より商人町職人資料館として開館しました。

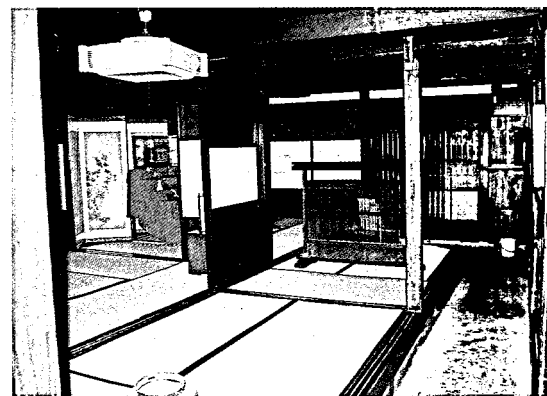


宮地家が立地する大新町は、高山の町から越中（現富山県）にむかう越中街道の道沿いに発展した町です。宮地家の前を通る越中街道の道沿いには同じような古い木造家屋が点在し、往時の面影をうかがうことができます。宮地家も含む大新町の家々は、商業の他に農業などを兼業しているところが多かったようです。

宮地家住宅は主屋とそれに取り付く下屋、土蔵とその横の木造倉庫から構成されています。明治8年の大火で宮地家をはじめ多くの町屋が焼失しましたが、主屋はその後比較的早い時期に建てられたとされています。土蔵はその大火の際にも焼け残り、建築されたのは江戸時代まで遡ると考えられます。道路に面した主屋正面は商いが行われた商家の特徴が認められますが、宮地家住宅では農業もおこなっていたため三町（高山市三町伝統的建造物群保存地区）のような本格的な町屋形式とは違ったところが多くみられます。主屋裏側にある土蔵の脇土間付近を納屋に改造したり、農作業に使う馬のため、蔵の横を馬小屋とし

て用い、馬が外に出て行かないように用いる「ませんば」を差すための穴が柱に設けてあります。

この特色ある町屋の内部を見学できると同時に、大新町が形づくられた越中街道をテーマに展示が行われています。そして、大新町にいた様々な職人（石工、春慶塗、一刀彫り、和下駄づくりなど）の用具や作品を見ることができます。



また、宮地家と同様に高山市教育委員会が管理する国指定重要文化財・松本家住宅（上川原町125）も見学することができます（無料、開館日・時間は宮地家と同じです）。江戸時代後期の高山を代表する町屋建築である松本家住宅と農業兼業の特色ある商家である宮地家住宅とを比較してみるのも興味深いことでしょう。

【交通】JR高山駅より徒歩約20分

【開館時間】9：00～16：30

【休館日】土曜・日曜・祝日

【入館料】無料

【利用申込】高山市教育委員会 文化財保護課
・連絡先）0577-32-3333（内線2355・2356）
（機関紙編集委員 飛驒民俗村 岩田 崇）